

2022.09.29. 木曜礼拝 人々に嘘を信じさせる

エレミヤ書 27・28 章

JD ファラグ牧師

27 章と 28 章の二つの章で、これらは一緒になっています。27 章には 4 回も「彼らは偽りを預言している」と書かれています。そして、28 章に入ると、「あなたはこの民を偽りに投げ頼ませた」と書かれています。この 2 章はどんな内容だと思いますか？ さて、これから見ていくように、預言者エレミヤは、このような偽預言者たちに立ち向かっているのです。特に、28 章で紹介するのは、その一つです。彼らはユダに対して、肯定的な楽観的な預言しかしていなかったようです。彼らのメッセージは気分が良く感じるもので、すべて良いメッセージなのです。そしてエレミヤは、この荒野の孤独な声のように、本当にたった一人で真実を語っているのです。他の全員は嘘をついています。これから見ていきますが、彼らは皆、その嘘を信じているのです。それは問題です。問題は、肯定的で楽観的なメッセージは、すべて嘘だったということです。民はその嘘に耳を傾けることを選びました。そのため、彼らは騙され、その嘘を信じることになったのです。民はそれを信じたかったのです。エレミヤが預言していたことの意味合いのゆえに、民はエレミヤが間違っていることを願い、これらの偽預言者たちが正しいことを願ったのです。それは真実ですが、しかし、預言者エレミヤと正反対のことを語るこれらの偽預言者を信じる方が、言葉は悪いですが、よほど都合がよかったのです。そのことを踏まえ、27 章 1 節に入りましょう。

—エレミヤ 27:1—

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの治世の始めに、主からエレミヤに次のようなことばがあった。

—エレミヤ 27:2—

主は私にこう言われた。「あなたは縄とかせを作り、それをあなたの首に付けよ。」

ああ、また出てきました。ある人が言ったように、デジャヴの繰り返しです。これは重複しますが、今また、エレミヤが主から視覚的に預言するように命じられた時のことです。ある時は、腰にこの帯を巻くように言われ、皆の注目を浴びることがありました。人々はエレミヤを見て、

「わあ〜！素敵な帯だね、エレミヤ。どこで手に入れたの？おしゃれ！」そしてエレミヤは突然なくなります。「どこへ行ったの？」エレミヤはバビロンに行き、帯を持って行ったのです。帯を埋めてダメにしてしまいます。エレミヤが戻ってくると、帯はありません。「エレミヤ、帯はどこにいったの？」「ああ、心配ない。今にわかるよ。今、注目しましたね？ 神があなたの注意を引かれたのですが、たまたま私がその役目だったただけなんです。」すると、エレミヤはまたなくなります。「エレミヤはどこに行ったの？」

「今回はどこに行ったのか分からない。」そして、エレミヤは戻って来ました。ユダからバビロンまで少なくとも 2 ヶ月はかかっていたでしょうから、かなりの旅です。エレミヤは戻って来て、帯を付けています。「帯に何があったの？ ポロポロじゃないか。」非常にゆるい訳ですが、それには理由があります。

「どこへ持っていたんだ？」「あなたがたが捕囚される場所、バビロンへ持って行ったのです。あなたがたが見たこの帯に起こったことが、あなたがたに起こります。」

彼らはそんなこと嫌です。そしてエレミヤには、また別の視覚的な預言があります。今回は土の器で、その器が壊れてしまいます。またもや、その視覚的な預言は、帯と同じようなもので、これがあなたがたに起こるのだと。さて、27 章まで早送りし、今回はかせです。かせとは何か？ それは木でできていて、動物の首に付けるものです。くびきであり、重荷であり、革ひもで結び付けられます。ここで神は、エレミヤに語られます。

「縄とかせを作り、それを付けなさい。そうすれば、また注目されるでしょう。あなたはこのかせを付け、そして、このかせを首につけて、この視覚的な預言で民の注意を引くだけでなく、余分に作って出荷してほしいのです。送料はわたしが払います。彼らに送りなさい。」3節。

—エレミヤ 27:3—

そうして、エルサレムのユダの王ゼデキヤのところに来る使者たちによって、エドムの王、モアブの王、アンモン人の王、ツロの王、シドンの王に伝言を送り、

ゼデキヤについては、これから詳しく説明しますが、彼はバビロンから来たネブカドネツアルによって、ユダに置かれた操り人形の王でした。よろしくありません。4節。

—エレミヤ 27:4—

彼らがそれぞれの主君に次のことを言うように命じよ。「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたは主君にこう言え。

—エレミヤ 26:5—

わたしは、大いなる力と伸ばした腕をもって、地と地の面にいる人と獣を造った。わたしは、わたしの目になつた者に、この地を与える。

—エレミヤ 26:6—

今わたしは、これらすべての地域をわたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルの手に与え、(覚えておいてください) 野の生き物も彼に与えて彼に仕えさせる。

さて、この”しもべ”を、主のしもべとは考えてはいけません。違います。ネブカドネツアルは、神の目的に仕え(しもべ)、民を訓練し、懲らしめるために使われるのです。このネブカドネツアルは神の御手による神のしもべとなり、神の目的のために使われるのです。7節です。

—エレミヤ 27:7—

彼の地に時が来るまで、すべての国は、彼とその子と、その子の子に仕える。しかしその後で、多くの民や大王たちが彼を自分たちの奴隷にする。

—エレミヤ 27:8—

バビロンの王ネブカドネツアルに仕えず、またバビロンの王のくびきに首を差し出さない国や王国があれば、わたしは剣と飢饉と疫病をもってその民を罰し—主のことば— 彼の手で彼らを皆殺しにする。

オッキー 次に進む前に、少し整理しておく必要がありますね。これは強力なので、どうか個人的に捉えてください。ここで、迫害された預言者が、この不人気な視覚的な預言を宣言しています。もう一度、神から与えられた想像力を働かせて、そこに身を置いてみてください。ここにエレミヤが居ます。

「あ〜、エレミヤ。今度は何をしているんだ？ そのかせはどういうことだ？」エレミヤの首には、このかせが付いているのです。木片を、革紐で締め上げています。そしてエレミヤは、首にかせを付けてこれを預言しているのです。エレミヤは民に語っています。

「どういうことだ？ 神がこのバビロンのネブカドネツアル王を用いろうとされていて、私たちは彼に屈し、彼に従わなければならず、彼のくびきの下に置かれることになるというのか。そしてもし私たちがそうしないなら、神が私たちを殺されると？ どうしてそんなことがわかるんだ？ エレミヤ、君は完全におかしくなってしまった。ちなみに、ちょっと気になったのだが、帯の次に、土の器だった。今回はかせだ。来週は何なのか？」

「分かりません。神に尋ねなければ。今、あなたの注意を引きましたね？」ほら、預言は視覚的な方が迫

力があるのです。また、本当に考えてみると、エレミヤがかせについて、このように預言しているのを想像できますか？ 人々はだた、「あ〜、エレミヤがまた言ってるよ。」しかし、この視覚的なものはどれほど強力でしょう。エレミヤはかせを付けているのです。バビロンの王のくびきの下にあること、神がそのように定められたことを語っているのです。神に対して戦おうとしても、私たちの問題はバビロンではなく、神に対するものなのです。私たちは神に対して罪を犯しました。バビロンは神の御手にある道具に過ぎないのです。神はバビロンとこの王を用い、その国を使い、私たちを罰し、懲らしめようとしておられるのです。もしそれに逆らおうとするなら…ここですぐに出てきますが、神はそれについて何かをされます。かなり生々しいですよ？「剣、飢饉、疫病」「彼の手で彼らを皆殺しにする。」9節。ここが非常に面白いところです。

ーエレミヤ 27:9ー

だから、あなたがたは、バビロンの王に仕えることはないと言っているあなたがたの預言者、占い師、夢見る者、卜者、呪術者に聞き従ってはならない。

5つ数えました。わあ、なんという仲間でしょう。では… 私たちはその預言者たちがどんな者か知っています。彼らは偽りを預言している、偽預言者たちです。占い師とは？ 予言者です。夢見る者とは？ 夢を見て、その夢を解釈する人たちです。この卜者とは？ 当時、世間を騒がす人と思われていました。彼らは空にあるしるしを研究します。私たちは呪術者のことは少し知っています。預言アップデートで新約聖書のことをお話ししました。「呪術者」という言葉は、魔法薬や魔法の呪文を使うこと、思考を変化させる薬品や薬を使うことです。ですから、新約聖書を見ると、新約聖書の前語であるギリシャ語で「魔術」という言葉は、英語で言うところの「薬局」「医薬品」の語源となったものです。ですからこれは「魔法の呪文」「魔法の薬」だったのです。これらの預言者、占い師、夢見る者、卜者、呪術者は、すべて偽者でした。悪魔的とさえ言えるでしょう。エレミヤはここで、かせを付けて、神の民に語っているのです。

「あなたがたはバビロンの王に仕えることはないと言っている彼らに耳を傾けてはならない。」

「ああ、エレミヤはあっちで、そうなると言っている。エレミヤは主の御名によって語っている。今あなたは、反対の事を語っている。私たちはバビロンの王のくびきの下に仕えることはない。」10節、エレミヤは続けています。バビロンの王に仕えないと言う者の言うことを聞いてはいけない理由です。10節。

ーエレミヤ 27:10ー

彼らは、あなたがたに偽りを預言しているからだ。それで、あなたがたは自分たちの土地から遠くに移され、わたしはあなたがたを追い散らして、あなたがたは滅びることになる。

しかし...11節。もう一度出てきます。

ーエレミヤ 27:11ー

しかし、バビロンの王のくびきに首を差し出して彼に仕える国を、わたしはその土地にとどまらせるー主のことばー。こうして、人々はその土地を耕し、そこに住む。」

えっ?! 分かりました、エレミヤ、聞いてください。あなたが大好きですよ。誰かが "大好きだ" と言った後、何が来るかわかっているはずですよ。でも、「しかし」があるんです。「しかし、…あなたが大好きだけど、しかし、…エレミヤ、私はあなたが大好きだけど、でも…あなたは実際、主からの言葉で、私たちはバビロン王のくびきのもとに仕えると主の御名によって預言していて、あっちにいる他の全員が、

全く反対の事を語っているのです誰が正しいの？ 私はとても混乱しているだけでなく、さらに悪いことに、あなたの言っていることは全く意味をなしていない。あなたが主から語っていることは、本当に理解しがたい。私にはそうは思えない。その逆で、神は私たちがバビロンの王のくびきの下に置かれることを望まれないと思える。それが彼らの言い分で、そのほうが円満に思える。私にとってはより妥当なことだ。あなたの言っていることは、私には理解しがたく、受け入れがたく、納得しがたい。」

あえて言えば、嘘を預言する人たちに関して、現代でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

「どういう意味ですか、牧師さん？」まあ、…うむ…うむ…と思わせるものですよね。夢見る者、卜者、呪術者、預言者たちが言っていたことを、そのままではありませんが、基本的にはほぼ一字一句忠実に伝えている人は、それほど探す必要はないでしょう。

「いいや、そんな！ そんなこと起こらないよ！ 裁きはやって来ない。ただリラックスして。エレミヤが向こうで、『おい、これでおしました。これで終わりだ。これが終わり方だ。』と言っているのは知っている。」そして他の全員が、『いいや、こんな終わり方ではないよ。これで終わりじゃないさ。あいつのことは聞くな。主は来られない。携挙は起こらない。誰もが自分の生きている間に携挙が起こると思っていたんだ。それなのに…』

ペテロの手紙にあるように…、そこにたどり着くのが待ちきれませんが、携挙の前が良いですね。まあでも、その箇所にいく前に携挙が起こっても、何も問題ありません。ペテロが語っているのは、これはまた別の預言ですが、主の再臨について、あなたがたを嘲けり、馬鹿にする者たちがやってくることです。

「主は戻ってこないよ。すべてがいつも通りだよ。主の再臨の約束はどこか？ 君もその1人なのか？」

私たちは軽蔑され、嘲笑され、馬鹿にされるのです。(Ⅱペテロ 3:4)

何を言っているか分かりますか？「かかって来なさい。実際、あなたがそうするのが嬉しいです。あなたが私を馬鹿にすることで預言が成就しているからです。なぜなら、終わりの時代には、あなたのように、神の御言葉を信じる私のような人間を嘲る人が増えると言われているからです。」

これは神の御言葉です。これはやって来ます。それは起こります。神がそう仰いました。それで決まりです。補足的に言う必要がありますが、少しご辛抱ください。このことは、数週間前に預言アップデートでお話ししました。できるだけ愛をもって、親切に、謙虚に、このことを伝えたいと思います。いつでもラッパは鳴りうるという高揚感をあなたに奪われるつもりはありません。やってみても、無駄です。私はわくわくしているからです。もしあなたが、「冷静になって、落ち着いて」と言っても…まあ、言いませんよ。私はあなたのために祈ります。(J.D.睨みながら) — (笑) — 私がどう祈るか知りたくないでしょう。やめてください。使徒パウロがテモテに書いています。

「私のいのちは間もなく終わります。私は競争を走り終え、勇敢に戦い抜きました。私に待ち受けているのは、…(待ちきれません。わくわくします) 私に待ち受けているのは、義の栄冠だからです。(ここが重要です) 私にだけでなく、あなたにもあります。」(私にも?) そうです。

イエスの現れを待ち望み、憧れ、見張る者たちに。(Ⅱテモテ 4:7, 8)

「現れ」は「再臨」ではないことに、注意してください。携挙のことです。イエスはこの地に来られるのではなく、イエスは現れ、私たちをこの世から取り去られるのです。それが携挙であり、祝福された希望です。私たちの唯一の希望です。あなたはそれを盗みたいのですか？ 私には、盗み、殺し、滅ぼすためにやってくる敵のように聞こえます。サタンが盗みたいものは、あなたの車ですか？ サタンはあなたの車に用はありません。特にあなたの車には。私の車は、実はメモがあって… まあ、気にしないでくだ

さい。冗談です。でもね、メモがあるんです。

「泥棒さんへ、盗んでくれて本当にありがとう。保険金を受け取って、もっといいものを買うよ。神の祝福あれ。」— (笑) — 気にしないでください。さっきも言ったように、冗談なんですけど、なんとなく。サタンはあなたの車を盗みたいのではなく、あなたのクレジットカードを盗みたいのでもなく、そんなものは何も盗みたくありません。サタンが盗みたいものは？ あなたの喜びです。あなたの救いの喜びです。あなたの希望です。サタンはあなたの希望と喜びを盗みたいのです。なぜなら、主の喜びはあなたの力だからです。ネヘミヤ8章11節です。だからサタンは、あなたを弱らせ、落ち込ませ、圧迫させたいのです。サタンはあなたに憑りつくことはできません。しかしだからといって、あなたを圧迫し、落ち込ませ、失望させようとしなないわけではないのです。サタンが持つ最も強力な手段は、ある人は、巧みにこう言いました。最も強力な手段は、「落胆」という手段である。これは最も強力な手段です。サタンがそれを取り出すとき、これは最も強力な手段です。

「落胆」クリスチャンを落胆させようとします。落胆は放っておくとすぐに、「絶望」に変わるでしょう。そして、クリスチャンを落胆させ、絶望させることができたとき、サタンは捕らえることができるのです。サタンは捕らえます。それがサタンが盗みたいものです。私の喜びや興奮を盗むことはできません。ええ、続けて私を嘲りなさい。どうぞ。神が最終決定権を握っておられます。ところで、神は笑っておられます。素晴らしいユーモアをお持ちです。もし疑うなら、自分を鏡で見てください。神がユーモアをお持ちだと分かるでしょう。12節。

—エレミヤ 27:12—

ユダの王ゼデキヤにも、(これは操り人形の王です) 私はこのことばのとおりに言った。「あなたがたはバビロンの王のくびきに首を差し出し、彼とその民に仕えて生きよ。」

これは逆説的です。13節。

—エレミヤ 27:13—

なぜ、あなたとあなたの民は、主がバビロンの王に仕えない国に向かって語られたように、剣と飢饉と疫病で死のうとするのか。

さて、これは非常に重要です。これからが本番です。これは神の御言葉でした。神がそう仰い、決まったことです。「主がバビロンの王に仕えない国に向かって語られたように、」14節。

—エレミヤ 27:14—

『バビロンの王に仕えることはない』とあなたがたに語る預言者たちのことばに聞き従ってはならない。

...

待ってください。何て言いましたか？『バビロンの王に仕えることはない』待ってください。神は今、私がバビロンの王に仕えるとおっしゃいました。「いいや、そんなことあるわけない。」

...彼らがあなたがたに偽りを預言しているからだ。」

—エレミヤ 27:15—

「わたしは彼らを遣わさなかったのに—主のことば— 彼らはわたしの名によって偽りを預言している。わたしがあなたがたを追い散らし、あなたがたも、あなたがたに預言している預言者たちも、滅びることになるのだ。」

わお...。ただただ...ここで少し立ち止まって、考えてみませんか？ 民は彼らの話を聞いていたのです。だから神は、「彼らのことばに聞き従ってはならない」と伝えるように、エレミヤに命じておられるので

す。「神の御言葉に聞き従いなさい。神はすでにあなたに語られました。なぜ彼らのことばに聞き従うのか？ ああ、あなたは神が仰ることが気に入らないのですか？ セカンドオピニオンを求めるのですか？

「バビロンの王のくびぎのことは、なんだかそんな感じがしないんだ。まだ実感がないんだ。」感じないんですね。(皮肉っぽく) これは神の御言葉です。ああ、すみません。失礼しました。申し訳ありません。私たちは感情によって生きるのですか？ それとも信仰によってですか？ 感じるものによって、それとも信仰によって、歩むのですか？ 覚えていますか？ ヤコブと母親にどうだったか尋ねてみてください。父親のイサクが、感じるものにしがたってどうなったのか。イサクは自分の感じたものを頼りにしたのです。イサクは、その腕はエサウのように感じましたが、騙されてしまい、エサウではなく、ヤコブだったのです。イサクは見えなかったので、感じたもので、決断したのです。ところで、非常に大きな影響を与える決断です。イサクが感じたことに頼ったことで、こんにちに至るまで、中東で繰り返されているのを私たちは見ているのです。イサクは「聞こえてくる言葉はヤコブだが、しかし、私が感じるもの、嗅ぐ匂い、そして味はエサウだ。」(創世記 27:22 参照)

そしてイサクはヤコブに祝福を与えることを決断します。感じたことに基づいて、イサクは聞いたことばに逆らったのです。もう一步踏み込む必要があるのかもしれませんが。私は自分自身を含めて、神の御言葉が私の感情と正反対であるとき、私の感情が勝つことがないように神に祈ります。

「ああ、私はそうは感じないんだ。」分かりました、気にしないで。これは神の御言葉です。

「でも、そんな風には感じないんだ。」そうですか、分かりました。あなたはそう感じないんですね？ 感じることによって生きており、信仰によって生きていないからでしょう。

信仰とは望んでいるものへの実体、まだ見ぬものの”証拠”です。強い言葉です。(ヘブル 11:1)

さて、先に進まなければなりません。16 節にいく前に、もう一つ。...いえ、まだですね。すみません。

— (笑) — 酷いですよね？ 失礼しました。16 節。

— エレミヤ 27:16 —

私はまた、祭司たちとこの民全体に向かって語った。「主はこう言われる。あなたがたは、『見よ、主の宮の器はバビロンから今すぐにも戻される。』とあなたがたに預言している、あなた方の預言者のことばに聞き従ってはならない。彼らはあなたがたに偽りを預言しているのだ。

— エレミヤ 27:17 —

彼らに聞き従ってはならない。バビロンの王に仕えて生きよ。どうして、この都が廃墟になってよいであろうか。

— エレミヤ 27:18 —

もし彼らが預言者であるなら、もし彼らに主のことばがあるなら、彼らは、主の宮、ユダの王の宮殿、またエルサレムに残されている器がバビロンに持って行かれないよう、万軍の主にとりなしをするはずだ。

— エレミヤ 27:19 —

まことに万軍の主は、神殿の柱、『海』、車輪付きの台、また、この都に残されているほかの器について、こう言われる。

— エレミヤ 27:20 —

— これらの者は、バビロン王ネブカドネツアルがユダの王、エホヤキムの子エコンヤ、およびユダとエルサレムのすべてのおもだった人々をエルサレムからバビロンへ引いて行ったときに、奪い取らなかった

ものである。

—エレミヤ 27:21—

まことに、イスラエルの神、万軍の主は、主の宮とユダの王の宮殿とエルサレムに残された器について、こう言われる。

—エレミヤ 27:22—

『それらはバビロンに運ばれて、わたしがそれを顧みる日まで、そこにある—主のことば—。そしてわたしはそれらを携え上り、この場所に戻す。』

オッケー 何のことですか？ 神殿の中の器？ 理解しなければならないのは、ネブカドネツアルが来て、ユダヤ人をバビロンに捕虜にし、神殿からいくつかの器を持って行ったことは3度ありました。ここで、これらの偽預言者たちは、「私たちは器を取り戻す。」と言っています。

「いや、私たちはバビロンに捕虜にされない。バビロンへ捕虜にされないだけでなく、私たちの国を取り戻すんだ。私たちの器を取り返し、バビロンから民を連れ戻すんだ。」

そこでエレミヤが言います。「いいえ、それは神が仰っていることではありません。ええ、彼らはそう言いました。あなたがたは彼らのことばに聞き従っています。彼らのことばの方が、もっと気に入ったからです。しかし、それは真実ではありません。違います。実際に、あなたがたは本当に預言者で、あなたがたの語っていることが本当に主からならば、器が戻ってくるように祈るのではなく、まだ残っているものが守られるように祈るはずですよ。どうですか？」

「そんなこと考えなかったよ。」もちろん、そうでしょうね。すみません、怒っているわけではないのですが、これはおかしいです。考えてみてください。彼らは、神が言われたこととは、完全に正反対のことばかり言っているのです。つまり、これ以上の正反対はないのです。神は、こう言われたばかりです。

「神殿からバビロンに器は移される。彼らは民をバビロンに捕虜として連れて行く。バビロンの王のくびきの下に置かれることになる。」そして、ここではこの預言者たちの中から、ある一人を紹介します。この人はいわば、ある種の特別な人なのです。さて、彼にとっては良い結末ではありません。ネタバレですが、彼らは、正反対のことを語っていたのです。神は、「あなたはバビロンの王のくびきの下に置かれる」と言われました。預言者たちは、「あなたがバビロンの王のくびきのもとに置かれることはない。」と言いました。神は、「民はバビロンに捕虜として連れて行かれる」と言われました。預言者たちは、

「いいえ、私たちがバビロンの王によってバビロンへ連れて行かれることはない。」と言いました。

あなたは彼らを見て、「バビロンはすでにそうしたけど...」という感じです。「ええ、分かっている。だから私たちは民を取り戻すんだ。」待ってください。神は今、「あなたは彼らを取り戻さない」とおっしゃったんですよ。そして実際に、最後の3回目に残ったものは、ネブカドネツアルがとうとう持って行くのです。

「これをさっさと終わらせよう。もう終結させないと。」つまり、ネブカドネツアルは、すべて持って行くのです。「いいえ、彼はすべてを持って行かない。」いや、持って行きます。「いいや、そうじゃない。」そうです。「いいえ、違うよ。」そうなのです。「いや、そうはならない。」

さてここには、さっと読んだだけでは分からない、力強い原理があります。これが私が言いたかったことかもしれません。なぜなら、彼らが何を言おうと、関係ないからです。「でも、誰それが言っていて...」私は気にしません。

「ええ、エレミヤが言っていたことは知っていますが、でも、彼らがこう言っていて...」

”彼ら”って誰ですか？ 彼らに会ってみたいものです。誰かが「私の名前は”彼ら”です」と自己紹介する日が来るのを待ちわびています。

「あなたが”彼ら”ですか！ 皆があなたのことを話していたんですよ！」

「彼らが言うには…」”彼ら”って誰ですか？「彼らが言うには…」彼らが何を言おうと、気にしません。おっと、もう一度すみません。申し訳ないです。お許してください、私は、彼らに最終決定権があるというメモを受け取っていないに違いありません。もし彼らがそう言ったのなら、それで決定なのですね？

「彼らがそう言ったから。誰それがそう言ったから。」う～！ う～！ う～！ 3回です。—（笑）— お～っと！失礼しました。ええ、「神はこう言われたけど、”彼らは”こう言っていた。」分かりました。なぜならどうやら、もし”彼らが”そう言えば、それが最終決定なのです。最終的な権威は彼らなのです。う～、…もう一度、最後のう～！ 最後ですよ。威張って言うような”彼ら”にはなりたくありません。

「さて、何か言うことはあるか？ ええ、尋ねてくれて嬉しいよ。」想像してみてください。あなたが何と言おうと、どうでもいいのです。神が何と仰っているのかを私は知りたいのです。

「神が仰ることは好きじゃありません。」まあ、大変。「彼が言っている事の方が好きです。」良いですよ、どうぞ。じゃあね、そんな風にはなりたくないよ。はい、終わりました。ところで、さらに良くなります。28章1節。これは同じ年に起こりました。どれだけの時間が経過したかは分かりませんが、どうやらエレミヤはまだこのかせをつけているようです。これをつけたまま寝ようとしていないことを願いますが、朝、預言しに出かけるときにだけ付けてくれればいいんですが。1節。

—エレミヤ 28:1—

その同じ年、ユダの王ゼデキヤの治世の初め、第四年の第五の月に、“ギブオン”出身の預言者、アズルの子ハナンヤが、…

ああ、それですべて説明がつかず。ギブオン。「どういう意味ですか？」ああ、エルサレムから5マイルほど離れたところで、欺瞞で悪名高い場所です。2週間前のアップデートで話したばかりですが、ギブオン人がヨシュアを欺いたことを覚えていますか？ 近接する近隣の民族との間で結べない契約があったため、次の標的になりたくなかったからです。ギブオンはそれを分かっている、イスラエルがすでにエリコとアイを奪ったので、次の標的になると分かっていたのです。それで、彼らはどうするのか？ 神の御言葉に反することについて話しますが、彼らのサンダルはボロボロで、遠い遠い国から、長い長い時間をかけてやってきたように見せるのです。彼らはカビたパンを持ち、破れたぶどう酒の皮袋を持って、5マイル離れたところに現れます。彼らはギブオン人ですが、ヨシュアは「あなたたちは誰だ？」と。

「私たちは遠くからやって来ました。私たちのサンダルを見てください。パンを見てください。出発した時は新鮮だったのですが、今はカビが生えて古くなってしまいました。遠いところから、こんなにも長い旅をして来ました。このぶどう酒の皮袋は、すべて破れて、壊れています。出発した時は、新品だったんです。」そして、ヨシュアはどうするのか？ ヨシュアは彼らの持ち物を見て、主に尋ねなかったのです。彼らと契約を結んでしまい、欺かれていることに気づくのです。（ヨシュア 9:1 - 15）

ですから、どうやらこれはギブオン人のようです。これですべてがわかると思います。彼の名は、ハナンヤ。エレミヤは言っています。

—エレミヤ 28:1—

…主の宮で、祭司たちと民全体の前で、私に語って言った。

これはまさに公の場です。

ーエレミヤ 28:2ー

「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは、バビロンの王のくびきを砕く。

おお、あなたが？わ～！ ヘブライ語で「フツパ」という言葉があります。その言葉の意味をご存じですか？「いい度胸だ」念頭において欲しいのは、このハナンヤは全員の目の前で、かせを付けているエレミヤに向かって言っているのです。

「おい、この騒ぎは何なんだ、エレミヤ。私が…」ハナンヤが言います。

「これは、イスラエルの神、主の御名によるものである。私は預言し、語る。主はこう言われる。」

ふ～！ これは「う～」ではありませんが、もう一度、これが再度の「う～！」です。う～…！ 私だったら、そんなことはしません。あなたは「主はこう言われる。」と言い、あなたがバビロンの王のくびきを砕くと？ エレミヤの顔を見たかったですね。目を回しているのでしょうか。こんな感じで。

「おいおい、マジかよ。私が主の御名によって『主はこう言われる。あなたがたはバビロン王のくびきの下に置かれる』と語り終えたばかりなのに、そして、あなたは私の前に立ち、公然と私を呼び出し、激しく、直接、主の御言葉と対立し、矛盾している。稲妻が落ちて来るので、あなたから離れさせてください。」

ちなみに、そうなるのです。章の終わりのネタバレになりますが、稲妻ではありませんが、稲妻と言いたいところですが。3節。

ーエレミヤ 28:3ー

二年のうちに、…ハナンヤはさらに具体的に、まだ主の御名によって預言しているのです。…わたしは、バビロンの王ネブカドネツァルがこの場所から奪い取ってバビロンに運んだ主の宮のすべての器をこの場所に戻す。

「恐れる必要はない。ここにハナンヤがいる！」う～そして、さらに良くなります。

ーエレミヤ 28:4ー

バビロンに行ったユダの王、エホヤキムの子エコンヤと、ユダのすべての捕囚の民も、“わたしは”この場所に帰らせるー主のことばー。“わたしが”バビロンの王のくびきを砕くからだ」

この人には“わたしが”の問題があります。「私が、私が…」「二年のうちに」良いでしょう。わお… …ここは気を付けなければいけませんね。まあ、これは実際にメモに書いたので、誰かに言ってもらいましょう。聞いてください。これは本当に良いです。非常に適切です。これについて、ある解説者は次のように述べています。

「ハナンヤのメッセージが非常に人気だったのは間違いない。大胆で、愛国的で、高揚感のあるものであった。あなたは誰の教会に行きたいですか？ エレミヤの教会か、ハナンヤの教会か？」

「ハナンヤの教会には、大勢の人が集まっていますね。だって、私はこれを聞きたいから。私が帰るとき、自分の事を良く感じていたいから。」

聞いてください。あなたが帰る時、神のことを良く感じているべきです。自分の事ではありません。これはポジティブでした。楽観的でした。これは…むかつく…というか微妙というか この、お先真っ暗なエレミヤの教会には、誰もいません。もし家族がいたら、そこにいるでしょうが、でもエレミヤには家族はおらず、そこには誰もいないのです。空っぽです。駐車場も空っぽです。駐車場係も必要なく、誰も駐車しない、誰もいないのです。でも通りを下って行き、ハナンヤの教会は、満員です。5礼拝あり、駐車場は見つかりません。なぜか？ なぜなら、私はこれが聞きたいからです。それをもう少し現代的な表現に

できないでしょうか。誰の YouTube チャンネルを登録しますか？ ハナンヤか、エレミヤか？ 誰の動画を...？ ちょっと個人的な話になってしまいますが。誰の動画を見て、高評価をしますか？ もう低評価はできません。彼らは無くしました。気づいていましたか？興味深いです。まあ、悲しいことに、エレミヤは全部検閲されちゃったので、もう YouTube チャンネルがないのです。もうしそうだとしても、私はハナンヤの動画を見る方が好きですし、ハナンヤの教会に行きます。だって、結局は愛国心を語っているのだから。「私たちの国を取り戻そう！」「私たちの民を取り戻そう！」「器を取り戻そう！」「私がそれを実行する！」「私が立ち上がり、彼らを取り戻す。エレミヤの話を書くのを止めるんだ。本当にお先真っ暗で、本当にネガティブだ。あの男は本当に悲観的だ。エレミヤが話すのは、ポジティブなメッセージは一切ない。彼の礼拝に行って、預言アップデートを聞いた後は、とても恐ろしい気持ちになるんだ。」

— (笑) — 5 節。

—エレミヤ 28:5—

そこで、預言者エレミヤは、主の宮に立っている祭司たちや民全体の前で、預言者ハナンヤに言った。

「あなたが公に私を呼び出すなら、私は公に答えよう。」

—エレミヤ 28:6—

預言者エレミヤは言った。「アーメン。そのとおりに主がしてくださるように。あなたが預言したみことばを主が成就させ、主の宮の器と、すべての捕囚の民をバビロンからこの場所に戻してくださるように。アーメン！ エレミヤ、あなたはここで何をしていますのですか？ アーメンだって？ その通りになるようにという意味ですよ。まあ、ちょっと聖なる皮肉もあるかと思いますが、しかし公平に見て、エレミヤはハナンヤが正しいことを望んでいたのです。

「お～、それが真実であったら。ハナンヤ、この苦しみの杯、バビロン捕囚が私たちから過ぎ去ることを神に祈ります。アーメン。その通りになるように。私は、あなたが正しければ、それ以上に嬉しいことはない。」

それは正しくなく、真実ではありません。7 節。これからが本番です。

—エレミヤ 28:7—

しかし、私があなたの耳と、すべての民の耳に語りとうとするこのことばを聞きなさい。

—エレミヤ 28:8—

昔から、私と、あなたの先に出た預言者たちは、多くの地域と大きな王国について、戦いとわざわいと疫病を預言した。

—エレミヤ 28:9—

平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、本当に主が遣わされた預言者だ、と知られるのだ。」

おお、わお。完璧です。ここでエレミヤがしたことが分かりますね？ 色々ありますが、まず第一に、これは素晴らしい、神の御心に適った返答です。神に感謝します。エレミヤ、この模範をありがとう。エレミヤはこの偽預言者ハナンヤに主張の責任を負わせているのです。

「ハナンヤ、私より前の預言者たち、私は良い仲間にも恵まれている。彼らは悲観的で飢饉や疫病、戦争や災害を預言したからです。そしてそれは実現しました。また、平和を預言した者がいて、平和を預言し、それが実現しました。」

実はそれが基準なのです。99.99999%ではなく、100%の精度で実現した場合、100%の精度で実現する

かどうかが、真の神の預言者であるかどうかのリトマス試験なのです。

「ハナンヤ、あなたは今預言しましたが、あなたが本当の預言者であるかどうか、すぐにわかるでしょう。100%の精密に、実現するかどうかです。」これを「抑止力」と呼ぶそうです。99.99%しか実現しなかったら、抑止力として殺されるんです。100%にかなり近くても、関係ありません。石打で殺されます。主の御名によって預言したからです。それは偽りの預言です。どうして偽りと分かるのか？ 預言が100%の精度で実現しないからです。そのようにして知るのです。それがまさに神の預言者であり、偽預言者ではありません。ハナンヤは偽預言者でした。10 節。

もう一度、これはまだ皆さんがその場面から離れられないところです。事件現場です。犯罪現場です。これはある意味、犯罪です。皆さん、その場において、自分をその場に置いてみてください。神に与えられた想像力を働かせてください。あなたはこの 2 人、ハナンヤとエレミヤ、そして周りの大勢の人たちを見えています。ここでエレミヤは、首にこの木のかせを付け、皮ひもが付いています。ハナンヤは、ここで رفتり来たりしています。エレミヤは…私は非常に優しい様子を想像します。エレミヤは非常に優しい男ですから。エレミヤはハナンヤに言います。

「あなたは間違っている。あなたが間違っていることはこれから分かります。それが実現すれば、あなたが本当に預言者であるかどうか分かるからです。」

これは、ハナンヤにはあまり受け入れられませんでした。どう反応したのか？ 10 節。

—エレミヤ 28:10—

しかし預言者ハナンヤは、預言者エレミヤの首から例のかせを取り、それを砕いた。

う～う～う～ いやいや、そんなことはしなかったでしょう。「私はしました。」

—エレミヤ 28:11—

そしてハナンヤは、民全体の前でこう言った。…

皆が見ている、「お～、これは面白くなりそうだ。」

—エレミヤ 28:11—

そしてハナンヤは、民全体の前でこう言った。「主はこう言われる。このとおり、わたしは二年のうちに、バビロンの王ネブカドネツアルのくびきを、すべての国々の首から砕く。」…

そして、預言者エレミヤは彼を容赦なく打ちのめした。いいえ、そんなこと書いていません。JD 訳です。

…そこで、預言者エレミヤは立ち去った。

お～、なんと。エレミヤ、もう一度ありがとう。私にはあなたにそうしてもらう必要がありました。なんと素晴らしい、神の御心に適った反応でしょうか。良いですか、何も反応しないのが一番良い時があるのです。繰り返しますが、想像できますか？ つまり、聖書のページに書かれている言葉や、デバイスの画面に表示されている言葉に過ぎないのですが、繰り返しますが、ここにかせがあり、この視覚的な預言があります。そしてこの男が、「いい度胸」でそれを取り、砕くのです。まず、この男を見て、

「自分でネタを持って来いよ。このかせは、主からの私の視覚的な預言なんだ。あなたはそれを私の首から取り、砕いて、自分の偽りの預言のために使うのか？ マジか？」

これは余談ですが。なんてドラマチックなんでしょう。ハナンヤはかせを取り、砕いて、そのおかげで預言するのです。そこでエレミヤは、「私はもう帰る」と。本当に良いですね。次に進む前に、もう 1 回だけ楽しませてもらっていいですか？ なぜなら、私はただ、これには本当に尊敬します。私だったらそんなことしませんから。私だったら、「やってやるぜ」という感じです。

「私のかせを砕くなんて、信じられない。これは私のかせだ！神がくださったかせを、お前は砕いた。や
ってやろうじゃないか。」いいえ、エレミヤはただ立ち去りました。どのくらいの期間だったか分かりま
せんが、12節で、エレミヤは戻って来なければなりません。

—エレミヤ 28:12—

預言者ハナンヤが預言者エレミヤの首からかせを取って砕いた後、エレミヤに次のような主のことばが
あった。

—エレミヤ 28:13—

「行って、ハナンヤに次のように言え。(主よ、行かなければなりませんか?)『主はこう言われる。
あなたは木のかせを砕いたが、その代わりに、鉄のかせを作ることになる。

—エレミヤ 28:14—

まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは鉄のくびきをこれらすべての国の首には
めて、バビロンの王ネブカドネツアルに仕えさせる。彼らは彼に仕える。野の生き物まで、わたしは彼に
与えた。』」

—エレミヤ 28:15—

そこで預言者エレミヤは、預言者ハナンヤに言った。…

これは良いですね。映画やドキュメンタリーでもいいから、ドキュメントドラマでもいいから、見てみた
かったです。

—エレミヤ 28:15—

そこで預言者エレミヤは、預言者ハナンヤに言った。「ハナンヤ、聞きなさい。主はあなたを遣わされて
いない。

神よ、神の人がこのように大胆に発言し、偽預言者に立ち向かうことができますように。

「あなたは神のものではない。あなたは神のものではない。神はあなたを遣わされなかった。あなたは偽
預言者だ。あなたは嘘をついている。これは嘘だ。あなたは自分の嘘を信じている。あなたはそれを信じた
いので実際にそれを信じている。主はあなたを遣わされていない。しかし…、ここが重要です。…あなた
はこの民を偽りに拠り頼ませた。16節。

—エレミヤ 28:16—

それゆえ、主はこう言われる。見よ、わたしはあなたを地の面から追い出す。今年、あなたは死ぬ。

なぜか？なぜなら、

…主への反逆をそそのかしたからだ。」

そして17節。このように聖書の学びを終えます。準備はいいですか？

—エレミヤ 28:17—

預言者ハナンヤは、…死んだ。

OK。

…その年の第七の月に…。

わお…！ わお…！ もう一度「う～！」と言っていいですか？ う～！ なんとなく計算してみて、思
いついた中で一番良かったのですが、私の計算が間違っていたら訂正してください。ハナンヤは同じ年
の第七の月に死にましたが、しかし、悔い改めるために、2か月あったようです。ハナンヤはそうしな
かったのです。エレミヤが大胆に正しく彼に立ち向かい、こう言ったときから二ヶ月ありました。

「主はあなたを遣わされていない。あなたは民を偽りに抛り頼ませた。ハナンヤよ、今私はあなたへの預言がある。神が最終決定権を握っておられる。これがその預言だ。あなたは死ぬ。」

神が仰ったことは、決定事項です。2か月後、ハナンヤは死にました。このような章の終わりは残念ですが、まだ祈りで閉じたくはありません。ここには何かがあると、言わざるを得ません。それは真実です。厳しい真実かもしれませんが、しかし、それが真実なのです。この世界のハナンヤは、悔い改めてください。そうしなければ、神はあなたを取り除かれます。もしあなたが神の民に脅威を与え、民を偽りに信頼を置くように導くなら、偽りに信頼している神の民が、神に反逆する原因になるのです。神はそのまま放っておかれません。神はご自分の民、ご自分の教会、ご自分の花嫁をととても大切にしておられます。もし脅威を与えれば、神はあなたを殺されるでしょう。これは非常に身の引き締まる思いがするはずですが、まだ首の後ろに毛が生えていることを前提に、首の後ろの毛が逆立つようなものです。これは、私たちの霊的な背筋を凍らせるものです。神は非常に深刻に受け取られます。繰り返しますが、私は言わなければなりません。こう言うのを飽きないで欲しいのですが、私たちがこの大胆さを持ち、おどおどして、控えめにしたり、和らげたりすることがないことを神に願います。

「あなたは神のものではない。なぜなら、これが神の御言葉が語っていることだからだ。もし、あなたがこれに反することを言い、彼らがこれに反することを言っているなら、嘘をついているのです。あなたは本物ではありません。偽者です。あなたは神のものではない。偽預言者です。悔い改めた方が良い。」

「ハナンヤという男を紹介しましょう。」いや、出来ません。ええ、それほど神は、深刻に受け取られます。十分に注意してください。十分に気を付けてください。よし、気が楽になりました。皆さんは恐ろしくなりましたね、ではカポノ出て来て下さい。皆さんお立ちください。でも、良いことですね？ 神について気分が良くなりましたね。そうですよね？ そうだと言って欲しいのですが。私はそうです。実際、とても守られている感じがします。神よ、ハナンヤを対処して下さり、ありがとうございます。神さま、あなたが真実であられることに感謝します。全ての人が嘘つきでも、あなたは真実であられます。人々が何と言おうと関係ありません。あなたが何と仰ったかだけが重要なのです。神の御言葉に書いてあるら、それは神の御言葉です。以上。

天のお父さま、今夜の学びは少し、言葉は悪いですが、ぎすぎすしていたと思いますが、お～、わお... その深刻さと顕著な臨場感から、これを私たちが心に留めておくことを祈ります。私たちの時代にも、予言者、占い師、偽預言者たちは、あなたのものでなく、この先何が起こるかを語られたあなたのことばに逆らう偽預言者たちです。神様、私たちに聖なる強さと揺るぎなさ、そして聖なる大胆さを与えて下さり、愛をもってこう言うことができるように祈ります。

「悔い改めた方が良い。あなたは間違っているから。あなたは偽者です。あなたは神のものではなく、これは神のものではありません。」と。神さま、感謝します。私たちにとても必要な力、そして励みになります。主よ、エレミヤを感謝します。主よ、私たちの聖書にこのことが記録され、今夜、後の世代の私たちがここを読み、心に刻むことができることを感謝します。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7